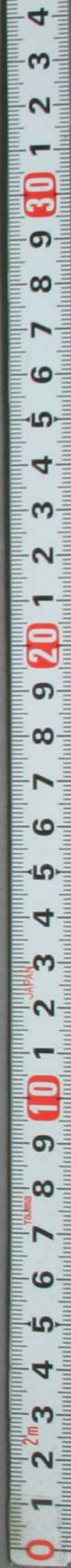


後宮鈔

22
4596
5

5



後宮鈔

後宮鈔

法五味均平藏

又 2
45.96
5



後醍醐天皇中宮

後京極院 藤原禧子

大政大臣實弟女

皇紀中宮藤禧子入道太政大臣實弟女母從二位藤孝子

昭訓院為女元應元八七立后元弘三七十一為皇太

后宮先中同年十六崩追号後京極院

謚号雜記後京極院禧子實弟公女後醍醐院后元弘

三年十月十二日院号

帝王系圖後醍醐院才一皇女宣政門院一品内親王權子

母後京極院

増鏡秋のこころ今の後醍醐もともやうより西園寺の入道とと実

兼の末の御女禧子實弟女の大幼言のいよ腹よりの
あま志のひてぬす見接ひてしうかき御思ひと
よそへやんとあはれしうまはいつく女御の



宣旨あときつらぬほどもあやうそ八月は辰とあ
まを入道殿もよまひのすゑよとあやうそめ
とあやう

後醍醐天皇中宮

新室町院 珣子内親王

後伏見院天皇長女

皇紀 新室町院 珣子内親王 後伏見院 皇女母 廣義門院 元

弘三十二七冊中宮 建武四正十六院号

謚号 雜記 新室町院 珣子 後伏見院 女 建武四年正月十六日

院号

女院部類 新室町院 珣子 後伏見院 皇女母 東御方 実明

女年月日 誕生 元弘三年十二月七日 中宮 建武四年正月

廿六日 院 公 年月日 崩

後醍醐天皇

新待賢門院 藤原康子

右近衛中將公康女

新待賢門院七々忌御願文 **辛酉**正平十二之曆中秋九月之候

忽落金釵玉鈿之麗飭御六大四男之法衣中其寶篋

不及耳順一年辛酉記厥訃音相先始卦二日也中正平十四年

六月十五日

新葉集新待賢門院かくまさせ給てのち御日教の程乃

こゝろとまゝに物あはれほろろのちとせ傳

りける返一つづつとて願氏マ母のまへにおく

りける遍照光院入道前太政大臣そのまゝよとす候と

すまはせらるるも 涙もよほ水くきのあは

園大曆文和元年正月二日皇太后事先朝被滌震筆候仍停

皇太后宮職可被申新待賢門院由被仰了中新号又
仗議難事行候之間以當家佳例可被申新待賢門
院之由被宣下了

後醍醐天皇女御
女御 藤原采女

關白道平女

皇紀女御 藤原采女 前關白左大臣道平女 母從二位 藤原陰子
元弘二十二廿八為女御

清名小御日本史
ヨリ訂スヘシ

後村天皇中言

嘉喜門院 藤原勝子

關白經家女

新葉集

嘉喜門院女御まねりまけるころ八月十五東家ま

哥合し傳ける時林正申月とりつゝをよま傳ける福恩寺前

關白内大臣おろしは林のまあすのころ光をへ
よまの上乃月

又 後村上院のくまをせ給ふけると五月五日あやめつけ

てとてま例らせ給ける新宣湯門院まあまあやめ
のまあまのり給るまきつゝのころ推案の神御返
嘉喜門院思もまあやめしらの推案の神まき
神のころまは

又

嘉喜門院のころまをせ給る後ハ御とまもうちすて
らまの年月を送せ給けるよ天授二年七月七日内裏ま

て中絶ふとありし時、侍聴守のふ入内ありけり。よ、侍
 樂をく、後侍琵琶をのりて、たひくすめ、
 小樂をもさくひを給けり。よ、侍也乃
 志才あといひ、のや、まねり、出らむ、侍制衣
 かての、すき、のや、その、乃秋おもひ、の松
 此返一、嘉喜門院あり、とも君了き、ける、今ハ
 と、吹たえ、き、の、松

新陽明門院源顯笠間山陵

後村上天皇中言

准后親房女

○南朝編年紀畧引准后傳興國五年四月日女御從三位

源顯子為中官職是一品准三宮入道親房卿女也即定宮

司以權大納言源具光卿兼大夫

○准后畧系顯子後村上院中宮女一宮母后是也

○南朝編傳准后正平八年六月四日皇子宫出奔於

長谷寺出家為尼名顯子入道准后末女也。一是奉恨主上

遁世皇居依之騷動云：十二日依皇太后逐電御事土御

門大納言顯信卿北畠右衛門督顯能卿企謀叛集伊賀伊

勢兵云：十五日一品准后到勢州諫子姪云：廿九日此日准

后入道自勢州飯到大野述君臣和睦儀上下安堵於中

宮者更不令還俗仍上門辨新陽明門院

○園大曆延文四年按今年南也五月一日云：及晚聞

南方新陽明門院一昨廿九日山崩御云々
 ○南朝編年紀畧引准后傳正平十四年四月廿八日園大按
曆為廿九日新陽明門院崩年二十云々今上中宮也葬宇
崩未知孰是隨郡笠間山陵元號白川中宮

日本史名共欠
 尚訂スヘシ

後龜山院天皇中宮
 中宮 某 三云 中宮 源信子
 右大臣顯信女

新葉集

中宮女御よれりましくける比もみちの枝をくこま
 つりせ 始いけとは嘉喜門院君りや秋のふかきういふ
 きほよを紅葉のふかきういふ 御返し中宮よかりしそ
 まのうらみよませなげける 御製衣ちらてあふちとせ
 の秋も色う飽よとくやの山乃峯のもみちを
 うの行宮よて百首哥よませなげけるゆゑ軍郭とと
 りよとも 中宮きあふ山時鳥この比や都の人
 をのたまひらん

又

花園院天皇
考へ

花園院天皇
宣政門院

惟子内親王

後醍醐天皇皇女

女院部類宣政門院惟子後醍醐院才一皇女也後京極院

年月日誕生年月日一品内親王建武二年二月二日院号

元准三言曆應二年五月廿日出家年月日崩

謚号雜記宣政門院惟子後醍醐天皇女建武二年二月二日

院号

御訂

光嚴院天皇後宮
徽安門院壽子內親王

花園院天皇皇女

女院部類
女門院壽子花園院皇女母室公門院光嚴院
妃崇光院養母後光嚴院准母年月日誕生建武四年
二月五日院号年月日崩
謚號雜記
徽安門院壽子花園院女光嚴院后建武四年
二月廿日院号

光嚴院天皇御侍
陽祿門院藤原秀子

內大臣公秀女

謚号雜記
陽祿門院秀子公秀女光嚴院后崇光院

准后宣下并院
御定奉陽祿門院藏人左兵衛佐忠光

先來予座下之後
藤原朝臣可准公宮令傳勅書與年官年

月壽討庄在自戶冷
長比由及來以在

官平高如本討之外
給五百戶以時先志先為到官代以
資為為主典代
十一月十日
壬午後
陽祿門院今日
而山取申修進
危惡之致
勅修寺言氣守法親

并院号定奉号陽祿門院
十一月十二日陽祿門院
今日御出家
廿八日柳女院已御交出來了
廿九日柳

ヨリ訂スヘ

譯本多
ヨリ訂ス

光嚴院天皇後宮
徽安門院壽子內親王

花園院天皇皇女

女院部類微女門院壽子花園院皇女母室公門院光嚴院

妃崇光院養母後光嚴院准母年月日誕生建武四年

二月五日院号年月日崩

謚號雜記徽安門院壽子花園院女光嚴院后建武四年

二月廿日院号

光嚴院天皇後宮侍
陽祿門院藤原秀子

內大臣公秀女

謚号雜記陽祿門院秀子公秀公女光嚴院后崇光院

後光嚴院等女文和元年十月廿七日院号

園大曆文和元年十月廿九日天陰今日後之位藤原秀子有

准后宣下并院辨定奉號陽祿門院藏人左兵衛佐忠光

来予座下云後之位藤原朝臣可准之宮令作勅書與年官年

爵封戶五百戶給中奉此由飯来云以准之宮為陽祿門院年

官年爵如元本封之外可副給五百戶以時光忠先為判官代以

資為為主典代十一月十二日壬午後陽祿門院今日

即出家市愆近日危急之故云勅修寺宮胤守法親

王為戒師如此内之儀也今年四十二歲云

禁
ヨリ訂ス

光嚴院天皇後宮
徽安門院壽子內親王

花園院天皇皇女

女院部類微女門院壽子花園院皇女母室公門院光嚴院
妃崇光院養母後光嚴院准母年月日誕生建武四年
二月五日院号年月日崩
謚號雜記徽安門院壽子花園院女光嚴院后建武四年
二月廿日院号

光嚴院天皇後宮侍
陽祿門院藤原秀子
內大臣公秀女

謚号雜記陽祿門院秀子公秀公女光嚴院后崇光院

女院部類陽祿門院秀子八條內大臣公秀公女母、、、

先嚴院妾崇光院後光嚴院二代母應長元女慶元年
月日誕生文和元年十月廿九日准后同日院号同年十
一月十二日出家同廿八日出四十二歲光嚴院御在世三
同年十二月廿二日遺令奏廢朝三時後光嚴院御在世非諱陰日
關止音奏同月廿八日主上著御錫紵

此文
ヨリ訂ス
園大曆文和元年十月廿九日天皇從三位藤原秀子有准后宣下
并院号定奉号陽祿門院十一月十二日陽祿門院
今日御出家廿八日抑女院已御更出來了廿九日抑

陽祿門院御事敬馬歎存候諒高之條勿論假及但無
足假間每支不道行候 十二月廿二日遺令奏也
帝王系圖光嚴院才一白王子崇光院養母徽安門院實陽
祿門院三条内大臣公秀公女

崇光院天皇女御
安福殿女御 藤原某

大政大臣公賢女

後光嚴院天皇典侍

崇賢門院 藤原仲子

贈左大臣兼綱女

院辨定部類後光嚴院至德三年四月廿五日有院辨定職事頭左中辨

資衛朝臣進執奉仰上其詞云准后可有院辨可奉次諸口定中執

召職事御奏中次上卿公卿悉又歸著之職事進執仰上

其詞云准后可辨崇賢門院年官年爵如舊封戶本府之外

加給五百戶云々

月可号 月曆二

後深心院淵白記應安八年二月二日壬辰傳少之位局

方中物 言猶子 一吹衣落筓云々

今上世傳 辨由小隆

院号崇賢門院元准三宮御出家以後也

帝王系圖後光嚴院皇子女後圓融院母崇賢門院贈左大

臣兼綱女

後光嚴院天皇典侍

崇賢門院 藤原仲子

贈左大臣兼綱女

謚子雜記崇賢門院仲子贈左大臣兼綱女後光嚴院后後曰

融院母永德三年四月廿九日院号

女院部類崇賢門院仲子號梅町殿從一位贈左大臣兼綱公

猶子初號三位局中、也實八幡祠官女母後光嚴院

妾後圓融院母建武二年~~癸~~月日誕生年月日典侍從三

月可号 康曆二年正月廿八日准后永德三年七月廿五

日院号^{五十一}三歲應永卅四年四月十四日山崩

皇紀從三位藤仲子康曆二正廿八准三宮永德三四廿五

院号^{崇賢門院}元准三宮御出家以後也

帝王系圖後光嚴院皇子後圓融院母崇賢門院贈左大

臣兼綱女

諸門跡譜永助法親王俊光嚴院才五皇子女崇賢門院從一
立桐子貞治元年三月廿九日生

書今日味茶也去年五月廿日...
廿日靜余前泉前寺...
廿五日靜奉女...
廿七日...
廿九日...
三十日...
三十一日...
四月初一日...
四月初二日...
四月初三日...
四月初四日...
四月初五日...
四月初六日...
四月初七日...
四月初八日...
四月初九日...
四月十日...
四月十一日...
四月十二日...
四月十三日...
四月十四日...
四月十五日...
四月十六日...
四月十七日...
四月十八日...
四月十九日...
四月二十日...
四月二十一日...
四月二十二日...
四月二十三日...
四月二十四日...
四月二十五日...
四月二十六日...
四月二十七日...
四月二十八日...
四月二十九年...
四月三十日...
五月初一日...
五月初二日...
五月初三日...
五月初四日...
五月初五日...
五月初六日...
五月初七日...
五月初八日...
五月初九日...
五月初十日...
五月十一日...
五月十二日...
五月十三日...
五月十四日...
五月十五日...
五月十六日...
五月十七日...
五月十八日...
五月十九日...
五月二十日...
五月二十一日...
五月二十二日...
五月二十三日...
五月二十四日...
五月二十五日...
五月二十六日...
五月二十七日...
五月二十八日...
五月二十九年...
五月三十日...
六月初一日...
六月初二日...
六月初三日...
六月初四日...
六月初五日...
六月初六日...
六月初七日...
六月初八日...
六月初九日...
六月初十日...
六月十一日...
六月十二日...
六月十三日...
六月十四日...
六月十五日...
六月十六日...
六月十七日...
六月十八日...
六月十九日...
六月二十日...
六月二十一日...
六月二十二日...
六月二十三日...
六月二十四日...
六月二十五日...
六月二十六日...
六月二十七日...
六月二十八日...
六月二十九年...
六月三十日...
七月初一日...
七月初二日...
七月初三日...
七月初四日...
七月初五日...
七月初六日...
七月初七日...
七月初八日...
七月初九日...
七月初十日...
七月十一日...
七月十二日...
七月十三日...
七月十四日...
七月十五日...
七月十六日...
七月十七日...
七月十八日...
七月十九日...
七月二十日...
七月二十一日...
七月二十二日...
七月二十三日...
七月二十四日...
七月二十五日...
七月二十六日...
七月二十七日...
七月二十八日...
七月二十九年...
七月三十日...
八月初一日...
八月初二日...
八月初三日...
八月初四日...
八月初五日...
八月初六日...
八月初七日...
八月初八日...
八月初九日...
八月初十日...
八月十一日...
八月十二日...
八月十三日...
八月十四日...
八月十五日...
八月十六日...
八月十七日...
八月十八日...
八月十九日...
八月二十日...
八月二十一日...
八月二十二日...
八月二十三日...
八月二十四日...
八月二十五日...
八月二十六日...
八月二十七日...
八月二十八日...
八月二十九年...
八月三十日...
九月初一日...
九月初二日...
九月初三日...
九月初四日...
九月初五日...
九月初六日...
九月初七日...
九月初八日...
九月初九日...
九月初十日...
九月十一日...
九月十二日...
九月十三日...
九月十四日...
九月十五日...
九月十六日...
九月十七日...
九月十八日...
九月十九日...
九月二十日...
九月二十一日...
九月二十二日...
九月二十三日...
九月二十四日...
九月二十五日...
九月二十六日...
九月二十七日...
九月二十八日...
九月二十九年...
九月三十日...
十月初一日...
十月初二日...
十月初三日...
十月初四日...
十月初五日...
十月初六日...
十月初七日...
十月初八日...
十月初九日...
十月初十日...
十月十一日...
十月十二日...
十月十三日...
十月十四日...
十月十五日...
十月十六日...
十月十七日...
十月十八日...
十月十九日...
十月二十日...
十月二十一日...
十月二十二日...
十月二十三日...
十月二十四日...
十月二十五日...
十月二十六日...
十月二十七日...
十月二十八日...
十月二十九年...
十月三十日...
十一月初一日...
十一月初二日...
十一月初三日...
十一月初四日...
十一月初五日...
十一月初六日...
十一月初七日...
十一月初八日...
十一月初九日...
十一月初十日...
十一月十一日...
十一月十二日...
十一月十三日...
十一月十四日...
十一月十五日...
十一月十六日...
十一月十七日...
十一月十八日...
十一月十九日...
十一月二十日...
十一月二十一日...
十一月二十二日...
十一月二十三日...
十一月二十四日...
十一月二十五日...
十一月二十六日...
十一月二十七日...
十一月二十八日...
十一月二十九年...
十一月三十日...
十二月初一日...
十二月初二日...
十二月初三日...
十二月初四日...
十二月初五日...
十二月初六日...
十二月初七日...
十二月初八日...
十二月初九日...
十二月初十日...
十二月十一日...
十二月十二日...
十二月十三日...
十二月十四日...
十二月十五日...
十二月十六日...
十二月十七日...
十二月十八日...
十二月十九日...
十二月二十日...
十二月二十一日...
十二月二十二日...
十二月二十三日...
十二月二十四日...
十二月二十五日...
十二月二十六日...
十二月二十七日...
十二月二十八日...
十二月二十九年...
十二月三十日...

後田院天皇後宮
通陽門院 藤原嚴子

丹大臣公忠女

女院 部類通陽門院嚴子後押小洛內府魚公女也、後田

院部類部類普見記應永三年七月廿四日院部定也上石府移着

真座有院部定位次以五人次序着之職事藏人左女并經

豐進真座仰之其詞母儀准后可有院部職事奏少頃之瑞進仗

座仰之母儀准后可奉部通陽門院年官年高封戶事被仰

教言卿記應永十三年十二月廿五日通陽門院御惱以外之間

非常之行幸腰與供奉人么么其外少、參飲所詮

惱邪氣脈之由大佛法印申之 廿七日晴通陽門院

御 御年五十五

諸門跡譜永助法親王俊光嚴院才五皇子女崇賢門院從一

位綱子貞治元年三月廿九日生

兼宣^御記應永卅四年五月十九日雨下自室町殿以勅修寺

於中納言被申院云崇賢門院山崩御定可為今明御事

候欵 廿日雨下自午刻許御稱名念佛無怠御座申

半刻遂御入滅云、御年八十九當今主上者御房上皇

者御孫子愚案先蹤御堂後御息女上東門院老一條

院后後一條後朱雀御祖母白河院御曾祖母也當代相叶

此御例者也 廿五日雨下寅刻信幸泉涌寺此御佛事

者於雲毫院可有御沙汰之由日比被思召定之間可有御

分之處於雲毫院老不可叶為方丈沙汰於他塔以可有御

沙汰之由為仙洞叡肯俄申談泉涌寺長老所被奉移也

廿七日雨脚無隙今日御拾骨也被奉渡御骨於女院以後

被始行御中陰御室妙法院宮上乘院宮等各令拾御

骨御座云、於御室老被召具法全別院長老被渡申

御骨云、餘御門跡老被預申方丈追可被渡申云、六

月十七日晴奉安女院御骨於雲毫院仁和寺宮妙法院

宮上乘院宮等為御燒香各御參云、 廿五年二月

廿日晴余詣泉涌寺雲毫院於崇賢門院御墳墓燒

香今日初參也去年五月廿日山崩御以後依款樂也

教言^御記應永十三年十二月廿五日通陽門院御惱以外之間

非常之行幸腰輿供奉人么么其外少、參欵一所詮此

惱邪氣脈之由大佛法印申之 廿七日晴通陽門院山崩

御 御年五十五

荒曆應永十三年十二月廿六日長賴來只今自裏松亭所參也
 就重事日野大納言有令申上旨云仍招寄北面筆子方寸
 之大納言申云北山後今日又令參通陽門院給御被見申
 慶明日行幸時分御被取延猶以危急如今者更無憑法
 事款就其諒閣事一代西度例四條院御代不快後醍醐院
 又非御當流例之間旁不庶幾之間於今度者不可有諒閣
 俄之由北山及時互一凌了就其以誰人可擬國母外且後先叢
 院御時陽福門院此事無諒閣之儀是以徽安門院為此
 准母之故之可謂近代佳例歟今度以崇賢門院可被御實母
 歟是又元來御祖母之事俄頗無骨彼是當時難裁之如何樣可有
 以汰哉執柄被見來之可諒合之由被仰出之間為歲末御禮每
 年明日廿七被參申之間其時可被諒合申之由有仰若所詮實
 儀以南御一乃元節寢殿日野大納言好也可准國母之由內議治定假就其
 先急被申出尊御事可有沙汰然若南御一所有准之右宣下
 之條可然之趣可被申歟 廿七日卯刻參北山後每身今日
 歲暮御慶參賀儀也予依藤中納言引導參進隨月許
 入座置共板之居懸也歲暮御慶申之被仰之祝言申籠抑通陽門院此
 事如今八大事可出來歟然諒閣西度例以外不快也文和度
 雖有陽福門院御子被畧諒閣儀歟御佳例不可外求口口
 口口不可有諒閣之由一所有存也然以崇賢門院可被奉定國母
 歟其外不可有治術歟如何之予申云一代諒閣連續例誠以不
 快且文和度御沙汰可謂佳濁歟其間事互在時議就其於文
 和儀以御繼母徽安門院被擬實母之間頗有其寄而當時
 崇賢門院御子誠難爾然正御祖母也昭穆不相叶歟以自
 余御事被定申其仁之條可考一義哉去仰云誰人可然哉
 重申云南御一乃傳記云孫上攝也准之右宣下為御准母之條有何事
 哉然者先可有尊御御沙汰歟皆是愚慮之一所早也若
 仰云此段旁非無斟酌雖然猶可回思案一、時互快然存內
 事之愚身偏以諂諛者先於戲悲哉之今夜准右宣下也

院踰定部類管見記 應永十四年三月五日院踰定上口花山院

大納言忠定口位次四人著仗座職事藏人右少辨家俊進奠

座仰之其詞云以母儀准后可奉授院踰可各奏申門踰歸出

仰云以母儀准后可奉踰小山院年官年爵如元以左少辨

者間御記應永廿六年霜月十日晴北山院今日山朋云室町殿八

幡御卷籠之間未及披露天下不可有觸穢云頭弁兼松資朝

位可籠居云十三日晴今晚女院岨岨真淨院有御茶毘云

大光明寺長老收骨役者被出室町殿入之由常宗可得

其意之由令申三位能出十四日晴三位歸卷女院御事仙洞

雖為准母不可有諒滿天下無觸穢僧中茶毗逢役者五山不經

迴籠居云故北山殿御時有院踰一時之采一睡之夢也至死期

非准母之俄人間不定今更被敬焉

後山松院天皇後宮

光範門院

藤原資子

贈左大臣資國女

兼宣御記應永卅二年七月廿九日晴內裏仰云國母二位局院

祈事可有申沙汰之由被中室町殿之間為室町殿使

小松余卷院則可申沙汰之由可仰藏人右中辨俊國之由有院

仰之間急召俊國仰勅定旨卷陣先有准后宣下事

伏願院踰歸出

廿日卷軍

廿日卷軍

廿日卷軍

廿日卷軍

廿日卷軍

廿日卷軍

廿日卷軍

廿日卷軍

廿日卷軍

廿日卷軍

廿日卷軍

廿日卷軍

院辨定部類管見記 應永十四年三月五日院辨定上口花山院

大納言忠定口位次四人著仗座職事藏人右少辨家俊進奠

座仰之其詞云以母儀准后可奉授院辨可各奏申門辨歸出

仰云以母儀准后可奉辨小山院年官年壽如元以左少辨

者間御記應永廿六年霜月十日晴北山院今日山朋云室町殿八

幡御參籠之間未及披露天下不可有觸穢云頭弁義資朝

后可籠居云十三日晴今晚女院岨岨真淨院有御茶毘云

大光明寺長老收骨役者被出室町殿入驚入之由常宗可得

其意之由令申三位罷出十四日晴三位歸參女院却事仙洞

雖為准母不可有諒滿天下無觸穢僧中茶毗逢役者五山不經

迴籠居云故北山殿御時有院辨一時之采一睡之夢也至死期

非准母之俄人間不定今更被敬焉

後山松院天皇後宮

先範門院 藤原資子

贈左大臣資國女

兼宣御記應永廿二年七月廿九日晴內裏仰云國母二位局院

辨事可有中沙汰之由被中室町殿之間為室町殿使

余參院則可申沙汰之由可仰藏人右中辨俊國之由有院

仰之間急召俊國仰勅定旨參陣先有准后宣下事

次有院辨之可為先範門院欽之由內有勅問室町

殿處可為聖斷由有御申仍此趣內奉行職事入

院上卿 右大將清通卿 問奉申云

薩戒記應永廿二年七月廿九日丙寅天晴二位殿今上御母儀入

國子女侍可有院辨之由自內被仰遣入道相府中亥終刻人

參集右大將先有看陣之儀中俊國執轅仰云後二位藤系朝臣資

子准之后互賜年官年壽并封戶五百戶中次俊國看轅仰云

准后藤系朝臣猶可仰後三位藤可有院辨何卜可奉申哉定中

廿三將軍如唯中畧可奉辨先範門院年官年壽如元本封之

外互宛賜五百戶者

稱光院天皇

藤原某

權大納言某

猶子

後崇光院

敷政門院

贈左大臣經有女

后三子皇太子多毛園院母光範門院實

<p>草書</p> <p>後崇光院</p> <p>敷政門院</p> <p>贈左大臣經有女</p> <p>后三子皇太子多毛園院母光範門院實</p>	<p>草書</p> <p>後崇光院</p> <p>敷政門院</p> <p>贈左大臣經有女</p> <p>后三子皇太子多毛園院母光範門院實</p>	<p>草書</p> <p>後崇光院</p> <p>敷政門院</p> <p>贈左大臣經有女</p> <p>后三子皇太子多毛園院母光範門院實</p>	<p>草書</p> <p>後崇光院</p> <p>敷政門院</p> <p>贈左大臣經有女</p> <p>后三子皇太子多毛園院母光範門院實</p>
--	--	--	--

後崇光院

敷政門院

贈左大臣經有女

帝王系圖 後小松院才三皇子 後花園院母先範門院實
母敷政門院 贈左大臣源經有女

康富記文安九年四月廿六日乙巳晴今夜有准后宣下事國母當今

宮之御母儀伏見入道親王北政所令蒙此宣旨給上權大納言公保卿按察使職

左中辨藤系俊秀中署御名字從三位源幸子也故源宰相經有所

息女也仍為經子而被改之為幸子云今上皇帝為後小松院

御養子仍先範門院為御養母雖然兩院共非御存生之間實

之御又母代見官并上極也可為御實母歟之由自禁裏被尋申前

攝政殿下之處可為御實母之由前攝政殿被申御意見仍

詔書之被載御實母之由者也云及晚更中務輔公持叅詔書

於伏見殿大外記公持叅年官年官宣旨云中左大史公持叅

封戶宣旨云中又幸子事武家鹿苑院相國之養母之御名也

草稿用

內務省

然雖非女院之由有御許詔不被燬之云中幸子事貞治二年云

月廿九日叙從三位應安二年十月廿五日又二品叙雖非女院

准后之列之間不可被燬之由在六升被申之

親長_マ記

明永九年八月十九日
親王御除服勘例

文安五年四月廿二日依敷改門院_マ

_マ親王_マ方於伏見令着_マ素服給_マ

後花園院天皇

嘉樂門院藤原信子

贈相國
內大臣信宗_マ猶子
實

皇紀從二位藤信子元卿子文明三閏八十准三后尼大炊御門入

道前內大臣信宗猶子元內裏女房命婦實藤原孝長朝

臣女故和氣御成三位猶子祗候林_マ裏卿成死去之時改養

子故係家_子朝臣猶子又_子自_子即位後改係家子信宗公猶

宣亂_マ記文明十三年七月廿六日己亥天晴今日當今_子儀准后

信子_子改名也實父故藤原孝長_子故和氣御成朝臣_子其後故係家朝臣_子猶子_子後又故大炊御門入道前內大臣_子信宗_子猶子_子依當今_子儀

也先年御出家_子尼_子祥也_子市年七十一歲新院_子代_子下_子号伊_子子_子在_子所

也奉行藏人_子元長_子辨元長_子仰上_子之_子母儀准后_子藤原朝臣_子可

三奉稱嘉樂門院_子年官年_子壽如元本封_子之外五百戶_子又加給

款_子上_子之_子召_子外_子記_子仰富朝臣_子仰年官年_子壽_子召_子并元長_子被

長御封_子五月廿八日_子同_子年五月一日_子遺令_子天

同月三日葬伏見般舟院 同月四日拾骨同月十五日倚廬渡
御同月廿七日還御

帝王系圖後花園院皇子後土御門院母嘉樂門院內大臣信宗
猶子實藤原孝長朝臣女

親長_レ記長享二年四月廿八日晴午刻許女院_ニ危急之由即
參入人、在同席凡御辨云許老辨云許長病無憑_ニ也
但此間連、如此御座又被立直之間暫祇候之後退出酉刻
許女院已_レ淨落居之由告來于今予參入無益今夜密、
奉盜出伏見般舟三昧院云其儀一向彼寺僧衆沙汰也
後法興院准后記文明十三年七月廿六日巳晴今夜女院辨
定也 廿七日_レ度晴侍_ニ去夜院辨_ニ被用嘉樂云、
長享二年四月廿八日壬晴女院酉刻終遂以御事切云、
春秋八十 五月三日丙女院之御事今夜御奉送云、

後土御院天皇准三宮
贈白皇太后言藤原朝子

贈內大臣長賢女

和長卿記明應元年七月十九日戌子晴自今晚儲君御母儀大新

典侍御中風再發已危急御躰也 廿日己丑晴今夜子刻

許彼御病者遂有御事中後宮昨日叙_ニ品給御名字上卿

侍從大納言今日任准后給上卿按察大納言申沙汰職事守

光云皆消息宣下也 廿七日丙申晴今晚於伏見有御

墓并返云御中陰於般舟院被修之源大納言申暇竹籠居

御寺彼卿御妹也

帝王系圖後土御院皇太子後土御門院母三宮沙草
玉院贈內大臣女

親長_レ記明應元年七月廿七日雨下今晚准后葬礼云於般舟院
有此_ニ云、

同月三日葬伏見般舟院 同月四日拾骨 同月十五日倚廬渡
御同月廿七日還御

帝王系圖後花園院皇子後土御門院母嘉樂門院內大臣信宗
猶子實藤原孝長朝臣女

親長記長享二年四月廿八日晴午刻許女院之危急之由即
參入人、在同席凡御辨云許老辨云許長病無憑也
但此間連、如此御座又被立直之間暫祇候之後退出酉刻
許女院已許落居之由告來于今予參入無益今夜密、
奉盜出伏見般舟三味院云其儀一向彼寺僧衆沙汰也
云 五月三日晴伏見般舟院女院許葬禮之 四日晴今
日御拾骨也

長享二年四月廿八日晴午刻許女院之危急之由即
參入人、在同席凡御辨云許老辨云許長病無憑也
但此間連、如此御座又被立直之間暫祇候之後退出酉刻
許女院已許落居之由告來于今予參入無益今夜密、
奉盜出伏見般舟三味院云其儀一向彼寺僧衆沙汰也
云 五月三日晴伏見般舟院女院許葬禮之 四日晴今
日御拾骨也

親長記明應元年七月十九日戌子晴自今晚諸君御母儀
典侍 御中風再發已危急御躰也 廿日己丑晴今夜子刻

許彼御病者遂有御事中後復昨日叙三品給御名字上卿
侍從大納言今日任准后給上卿按察大納言申沙汰職事守
光云皆消息宣下也 廿七日丙申晴今晚於伏見有御
墓并云御中陰於般舟院被修之源大納言申暇竹籠居
御寺彼御御妹也

帝王系圖後土御門院皇子後土御門院母嘉樂門院內大臣信宗
玉院贈丹大臣女

親長記明應元年七月廿七日雨下今晚准后葬禮之於般舟院
有此云云

同月三日葬伏見般舟院 同月四日拾骨同月十五日倚廬渡
御同月廿七日還御

帝王系圖後花園院皇子後土御門院母嘉樂門院內大臣信宗
猶子實藤原孝長朝臣女

親長日記長享二年四月廿八日晴午刻許女院之危急之由即
參入人、在同席凡御辨云許老辨云許長病無憑也
但此間連、如此御座又被立直之間暫祇候之後退出酉刻
許女院已許落居之由告來于今予參入無益今夜密
奉盜出伏見般舟三昧院云其儀一向彼寺僧衆沙汰也
後法興院准后記文明十三年七月廿六日巳晴今夜女院辨
定也 廿七日晴傳子去夜院辨子被用嘉樂云
長享二年四月廿八日壬戌晴女院酉刻終遂以御事切云
春秋八十 五月三日丙寅女院之御事今夜御奉送云

後土御院天皇准三宮
贈皇太后宮藤原朝子

贈內大臣長賢女

諸門跡譜尊傳法親王後土御門院才二皇子母准三后源朝子
權大納言源長賢之女

女院部類蒼玉院朝子權大納言重賢之女、後土

御門院安後柏原院母年月日誕生明應元年七月十七日
從三位同廿日准三宮同日薨今日院号云々廿七日葬御
中陰於般舟院文龜四年七月十八日贈皇太后宮

謚号雜記蒼玉朝子長賢之女後土御門后後柏原院母
帝王系圖後土御門院皇子後柏原院母准三宮源朝子蒼
玉院贈丹大臣女

親長日記明應元年七月廿七日雨下今晚准后葬礼云於般舟院
有此云々

奏事畢召中務賜詔書使賜宣余使於軾給之進發
墓所之使九近衛權中將為孝朝以次官不參九墓
使延長康保例云々少納言相共向伏見清墓一所欽來
廿日十三回也故入道權大納言長賢男内大臣女也
二水記永正元年七月十八日丙午晴入夜雨降今日午刻於陣座
后宣下付之為皇太后言 廿日戊申晴職子伊長宣下使
下冷詔孝朝以城南三罷出於墓所前申事由云々今日今上
御母准三宮今度皇后皇太后宮御十三回就之於城南般舟之味院有御經
供養尊師定法寺大德心公御

後柏原院天皇
豐樂門院 藤原藤子

贈左大臣教秀四女

女院部類豐樂門院藤子贈左大臣藤教秀女母、後柏

原院妾後奈良院母寬正五年月日誕生大永六年四月廿

九日從二位同七年五月廿日准三宮天文四年正月十一日崩

七十 同月十二日院号

謚号難記豐樂門院藤子教秀公女後柏原院后後奈良

院母

諸門詠譜尊鎮法親王後柏原院才三皇子母豐樂門院贈

左大臣教房公女

帝王系圖後柏原院才一皇子後奈良院母准三后藤子贈

左大臣教秀公女号豐樂門院

後奈良院御記天文四年正月十二日甲戌今日女院薨有定儀公卿仰

大納言新大納言萬里少路中納言持明院宰相三條宰相中將辨

頭辨中沙汰也兼秀朝臣於議之所聽之諸卿色々中然トモ上

卿帥大納言中和門豐樂門奉申間豐樂門院朕奉間一同無

難然間用之珍重々々今日院薨定以後聽准后昨夜初夜時

分何の御方モ無テ御ヒルナリテ眼ラル、如クテ御往生と云々去

年七月九日之見參ノテ、今一度御様躰ヲモ見テラセス無本

意次才云々以愁淚濕袂每事忘却歎息有餘云々頭書云豐三

樂門院御様躰猶相尋之處此間御腹中又御腫氣彼是自

去年依御長病也昨夜御體終者別無御惱事無苦無惱

忽然而如眠御往生云々悲哉云々今一度不見恩顔事子云

々々無念々々不弁是非母事夢中身唯人々相談之趣聽

耳無念愁緒無物干取譬哀哉々々

後奈良院天皇

吉德門院 藤原采子

贈内大臣賢房女

女院部類吉德門院万里少路宰相賢房女母、、

後奈良院女正親町院母年月日誕生年月日崩永祿

元年九月廿六日贈皇太后宮

帝王系圖後奈良院才二皇子正親町院母吉德門院贈

皇太后采子三木藤賢房女

正親町院天皇

清光院

藤原房子

内大臣秀房女

女院類聚

清光院

子房

内大臣秀房女

正親町院

妾陽光院

母

帝王系圖

正親町院

皇子

陽光院

贈太上天皇

母

内大臣

女号清光院

陽光元增太上天皇准后

新上東門院

藤原晴子

贈左大臣晴秀女

女院者後陽成院御母俄初修寺大納言晴右卿女也今
年御七十六歲也

十八日丙寅雨降故女院御死該今夜盜出於泉涌寺
洛次呂長柄板輿 十九日丁卯晴叅潮白殿新上東
門院御葬禮之間事 有御沙汰被尋遣江戶云々之
月十二日庚寅晴今日新上東門院於泉涌寺御葬并
禮有之亥刻云々御火葬云々御中陰於泉涌寺被
始云々

外史由年六十八云々

陽光院贈太上天皇准后

新上東門院藤原晴子

贈左大臣晴秀右女

女院類聚新上東門院晴子贈左大臣晴秀公女母、正親

町院安後陽成院四年月日誕生年月日准三后慶長五年

十二月廿日院号元和六年二月十八日崩

清攝作正親町院安誤當作陽光院安

御系譜陽光院皇女後陽成院新上東門院藤晴子贈左府晴

右公女

貴女新照洞門院陽光院妃後陽成院御母勅修寺内大臣

晴秀公女清攝

義淳准后記慶長五年十二月廿九日終日大雪降今日國母准后

御方女院新上東門院元和六年二月十八日女院御

他界由年六十八云、御腫物也勅修寺内府息女後陽成

院國母也当今御祖也三月十二日女院御葬送於泉涌

寺在之

辨舊記元和六年二月十七日女院夜半許、葬御、十八日女

院泉涌寺、奉送候由也御葬礼者江戸へ被申入候由也

三月十二日女院御葬礼泉涌寺也夜也

孝亮宿祿託元和六年二月十七日乙丑晴入夜雨降女院御

不例以外之由風洞及曉女院崩御也御一好方御腫物

也云、

女院者後陽成院御母儀勅修寺大納言晴右卿女也今

年御七十六歲也

十八日丙寅雨降故女院御死骸今夜盜出於泉涌律寺

路次召長柄板輿十九日丁卯晴叅潮白殿新上東

門院御葬礼之間事有御沙汰被尋遣江戸云、之

月十二日庚寅晴今日新上東門院於泉涌寺御葬并

礼有之亥刻云、御大葬云、御中陰於泉涌寺被

始之

慶陽成院 天皇女御 藤原前子

開白前久女

夜中和門院却葬禮於泉涌寺執行一乘院被向葬場餘
宮男女共無見物予不見物刻限子刻云々

其土人沐浴白其土人沐浴其土人

其土人沐浴白其土人沐浴其土人

其土人沐浴白其土人沐浴其土人

其土人沐浴白其土人沐浴其土人

其土人沐浴白其土人沐浴其土人

其土人沐浴白其土人沐浴其土人

其土人沐浴白其土人沐浴其土人

其土人沐浴白其土人沐浴其土人

後陽成院天皇女御
中和門院 藤原前子

湖白前久女

御系譜 後陽成院皇女 後水尾院御母中和門院藤原前子湖白前

久公女 元和六年六月二日門号 寬永七年七月三日崩 五十六歲

謚号 雜記中和門院前子前久我公女後陽成院后法皇母

女院類聚 中和門院前近衛湖白前冬公女母、後陽成院妃

後水尾院母 天正六年月日誕生 年月日入内 元和六年六月二

日准三宮 同日院号 寬永七年七月三日崩 五十三歲 葬泉涌寺

貴女 冲和門院 後陽成妃近衛太相國時嗣公女 清極

孝亮宿衿記 元和六年六月二日戌申晴今日准后宣下

陣儀 從三位藤原朝臣前子 互為准之宮事 門跡定被付行仗議有之

新舊記 寬永七年七月四日女院去年以來 ヨリ 不例種

醫術雄有之今朝崩御五十七歲成歲之 廿八日女

院葬禮於泉涌寺在之入夜亥刻由之

資勝卿記 寬永七年七月三日辛巳晴初夜時分女院

樣也他界之 四日壬午晴女院御一所泉涌寺御成之

廿七日乙巳明日中和門院泉涌寺御葬禮之 廿八

日丙午雨天今日御葬禮之

孝亮宿衿記 寬永七年七月三日辛巳晴今日中和門院

宮内省

崩御 御年五十六歲云々 ○按御系譜及本記俱依御年

歲皆誤也 新舊記作五十七歲成年誕生可以証 四日壬午晴今夜戌刻中和

門院御死骸密奉成泉涌寺御火葬之 路次長

柄輿云々 廿八日丙午雨降今夜子刻中和門院御

葬送於泉涌寺有之傳奏阿野中納言實頭卿中

内門大納言 宣衡 土御門左衛門佐泰重 五條為通 朝

臣清水谷忠定 岩倉具紀 以上傳奏以下六人着色云

、攝關家親王方等御使被出一乘院殿實相院殿

圓滿院殿妙法院殿等八女院御子御猶子等也仍葬

場有御參云々 今日雖雨降至子刻御葬禮之期天

晴云々

信尋公記 寬永七年七月三日辛巳晴女院御類以外之

日推三宮 同日院号 寛永七年七月三日崩 五十三歳 葬泉涌寺
貴女 冲和门院 后陽成妃近衛太相国時嗣公女 清梅

考亮宿衿記元和六年六月二日戌申晴今日准后宣下

陣儀 從三位藤原朝臣前子 互考准之宮事 門辨定被付行仗議有之

辨舊記寛永七年七月四日女院去年以來 ヨリ 不例種

醫術雖有之今朝山崩御五十七歳成歳之 廿八日女

院葬禮於泉涌寺在之入夜亥刻由之

資勝卿記寛永七年七月三日辛巳晴初夜時分女院

様由他界之 四日壬午晴女院御所泉涌寺御成之

廿七日乙巳明日中和門院泉涌寺御葬礼之 廿八

日丙午雨天今日御葬礼之

考亮宿衿記寛永七年七月三日辛巳晴今日中和門院

宮内省

崩御御年五十六歳云々 〇按御系譜及本記俱依御年 五十六歳女院類聚作五十二

歳皆誤也辨舊記作五十七歳成年誕生可以証 四日壬午晴今夜戌刻中和

門院御死骸密奉成泉涌寺御火葬之路次長

柄輿云々 廿八日丙午雨降今夜子刻中和門院御

葬送於泉涌寺有之傳奏阿野中納言實頭卿中

門大納言宣衡土御門左衛門佐泰重五條為適朝

臣清水谷忠定岩倉具紀以上傳奏以下六人着色云

々撰瀨家親王方等御使被出一乘院殿實相院殿

圓滿院殿妙法院殿等ハ女院御子御猶子等也仍葬

場有御参云々今日雖雨降至子刻御葬礼之期天

晴云々

信尋公記寛永七年七月三日辛巳晴女院御煩以外之

戌刻山崩御 〇按辨舊記作四日崩御誤也資勝卿記作三日 初夜時分御他界又本記作三日戌刻崩御

皆為 四日壬午晴今日御入棺女中之沙汰也東

御茶錦小路姬宮達等也五六人許殘女中不入其

間常白ネリノ御アハセ御綿オウシ入桶沉ツツカウ等

ニテツル其上入杉宮白キヌノヌタシカク其上ヲ又

カラクル布也 轅ニテ泉涌寺へ渡御酉刻許也 五日

关未晴今日御骨シロフ役者阿野中納言 實頭

左衛門佐 春重 〇春重考亮宿衿 記作泰重互從 廿八日丙午雨今

宮内省

夜中和門院御葬礼於泉涌寺執行一乘院被向葬場餘

宮男女共無見物予不見物刻限子刻云々

後水尾院天皇皇后

東福門院源和子

贈太政大臣秀忠女

孝亮宿禰託元和六年五月廿八日乙巳晴江戶將軍秀忠

公御息女御上洛○按我源准后託云畫時公御京着依可有入内也 六月十

八日甲子雨降今日女御入内也○按海舊託云未刻終也 八月十

六日於禁中女御御方御年十歲今日御髮履之有之一條右大

后令奉仕給之 十年十一月廿四日乙亥雪降就中宮

之事參一條殿六規申之事等有之參中院中納言中宮

方宣旨等之事封戶官符從三位中宮職等之事先日令懸御日之通文書今度不及法

沙汰之由有命 廿八日巳卯晴入小寒今日之后被行片節

會并小除日 寬永六年十一月九日庚寅晴院辨定陣

俄有之仰詞改母俄中宮

公御女 慶長十三年戊申年誕生 元和六年六月十八日入内十六歲

同日女御宣下 寬永元年十月十八日皇后宣下 同元年廿月

年齡考之

御系譜
皇女
御系譜

會并小御目 寬永六年十一月六日 皇女御系譜

此女之由御命 廿八日 皇女御系譜

衣直首等之事 皇女御系譜

之事 皇女御系譜

司令奉封命 十年十一月廿四日 皇女御系譜

六日 皇女御系譜

八日 皇女御系譜

六日 皇女御系譜

皇女御系譜

御系譜 後水尾院皇女 明正院母東福門院源和子將軍秀

忠公女 元和六年六月十八日入内 十六歲 同九年十一月十八日立

后 寬永六年十一月九日門号 延寶六年六月十九日崩 七十三歲

同廿六日葬于泉涌寺

女院 類聚東福門院和 贈太政大臣源秀忠公女母 一 一 後水尾

院妃 明正院母 後光明 後西 靈元等三代准母 慶長十一

年月日誕生 元和七年六月十八日入内 十六歲 寬永元年十一月十八日

中宮十九歲 同七年十一月九日院号 二十四歲 延寶六年六月十九

日崩 七十二歲 葬泉涌寺

門院 譜後水尾帝皇后東福門院御諱和子德川將軍太政大臣秀忠

公御女 慶長十三年 誕生 元和六年六月十八日入内 十六歲

同日女御宣下 寬永元年十一月十八日皇后宣下 同六年 五月

年終考之

御系譜

九日門号定東福院 延宝六年六月十五日崩御七十歳 同月二十

六日奉葬于泉涌寺

後水尾院天皇

生院藤原 継子

贈左大臣基任女

御系譜 後水尾院皇子 後光明院 御母生院藤継子 園贈左

府 基任公女 初号京極局 養應三年八月十五日院号宣下

明曆二年二月十一日薨 葬于泉涌寺

門院譜 後光明帝御親母生院諱國子園贈左大臣基任公女

号京極局 年月叙從三位 年月准三宮 養應三年八月

十八日門号定 明曆二年二月十一日薨去 月日葬于泉涌

寺 清按國子継子之謚

后水尾院天皇
逢春明院 藤原隆子

贈左大臣隆致女

御系譜 后水尾院皇子 后西院御母逢春門院藤隆子 櫛笥

贈左府隆致公女 始号御連局 貞享三年五月十七日從三位

同月~~廿二日~~十七日准三后 同月廿二日薨 八十二歲 門号六下 六

月二日葬泉涌寺

門院 譜后西院御親母逢春門院諱隆子 櫛笥左中將隆

致朝臣女 慶号御連局 貞享三年五月十七日叙從三位

同月十七日准三宮 門号逢春 同月廿二日薨去 八十二歲

同年六月二日葬于泉涌寺

收光明院天皇

大由侍

源某 家説作秀子

左中將重秀女

御子

譜俊光明院皇女

禮成門院孫母源大由侍局

庭田左中將重

秀朝臣女

一本挂局俊
号小一條

院
統紹運録

源大由侍俊号小一條 貞享三年四月二日逝去号采運

訂正

后西院天皇

女御

明子女王

弹正尹好仁親王表良女
実光改女

御系譜后西院皇女誠子内親王母女御明子女王高松弹正尹好仁

親王表良女實源光改朝臣女

有栖川宮御系譜明子后西院女御母越前宰相忠直女孫芳

珠院年月日生為良仁親王御息所即位之後女御祢

明子延宝八年七月八日薨号妙吉祥院聖輔義英夫人

同月十一日葬于大德寺

後水尾院天皇

新廣義門院 藤原國子

贈左大臣基喜女

御系譜 靈元院御母新廣義門院藤原國子 園贈左府基喜公

女始号新中納言局 延宝五年七月五日准三后 同日院号宣

下 同日薨 同月十日葬于泉涌寺

門院譜 靈元帝御親母新廣義門院講基子園贈左大臣基

喜公女号新中納言局 年月叙從三位 延宝五年七月

日門号定新廣義門院 同日准三宮 同日薨去 同日葬于泉

涌寺 女院賴親崩前年五十四歲

靈元院 天皇中宮

新上西門院

藤原房子

左大臣教平女

御系譜 東山院 御養母 新上西門院 藤原房子 鷹司左府教平公女

美應二年八月廿一日生 寬文九年十一月廿日入内 十七歲 天和二年

十二月七日准后宣下 同三年二月十四日立后 貞享四年二月

廿五日院号定 正德二年四月十四日崩 五十七歲 葬泉涌寺

月堂見陶集 正德二年四月十四日 女院 様 御瘡瘡 三御崩御之

由五月十二日夜 女院 御所 新上西門院 泉涌寺へ御葬禮 酉刻 御車

出御 雨天故 公卿ハ御先へ御越院 祭ノ水方女々御供所司

代々御供ハ不被成假 泉涌寺 御導師 揚柳寺 貫道長

老江戸御上使 高家 權瀬 駿河守 殿 寺門 侍 奏勅 修寺

并殿 御法事 奉以 烏丸 弁殿 御賄方 竹田喜左衛門 石

原新十郎 御掃除 作事 方角 倉子 市遺令 使 綾小路

中將上卿正親町三條凶事傳奏油小路大納言

門院譜 靈元帝皇后御諱房子鷹司前左大臣教平公御女

康應二癸巳年八月廿一日御誕生 年月日女御降臨定 寬文九

年十一月日叙從三位 同月二十一日入内 十七歲 天和二年十二

月七日准三宮 同三年二月十四日中宮宣下 貞享四年三月

廿五日門号定新上西門院 年月日御薙髮 正德二年四月十

四日崩御 三十一歲 同年五月十二日奉葬于泉涌寺 清保二十歲

靈元 敬法門院 藤宗子

前内大臣宗條女

御系譜 東山院御母敬法門院藤宗子 松木前内府宗條公女 祢

上廿賜局始大納言典侍又大典侍 天和三年二月十五日叙從三位

元祿二年正月廿九日准三后 正德元年十一月十七日薙髮 同

年十二月廿三日門号 享保十七年八月廿日薨 七十五歲 九月

廿日葬淨華院

女院類聚 敬法門院宗中御門内大臣宗條公女 母河鐸三位基秀之女

靈元院妾 東山院母 明曆三年十二月晦日誕生 天和三年

二月九日從三位 三十一歲 為尚侍 稱上藤局元大典侍 元祿二年正月廿九日

准三宮 三十七歲 正德元年八月年十月十七日出家 五十九歲於大聖寺

永秀法 同年十二月廿三日院号 享保十七年八月廿日山崩

名秀宗 七十六歲九月 廿日葬淨華院

月堂見聞集享保十七年九月廿日敬法門院極淨花院御葬送

行列 淨花院御火屋ノ額南北二朝方斗小妙寬門南八東寬

門 四方金龍赤地ノ
金入ニテ張

又十一月九日 敬法門院極淨花院惣墓所ノ小東ノ方西向

也白川石塔ノ形僧衆ノ塔ノ如クシテ高廿壹丈程頭輪ヨリ

地敷ノ石ニテ凡九重前ニ同石ニテ香炉水向アリ左右ニ同

白川石ニテ燈籠アリ御靈屋之四方ハ高屏瓦ぬき也

中央ニ敬法門院尊儀里字

東山院天皇中宮
養秋門院 幸子 中親王女
五王

式部之幸仁親王女

御系譜 中御門院母承秋門院幸子女王 有栖川式部之幸

仁親王女 元祿十年二月廿九日入内 十八歳 宝永四年五月二日

准三后 廿八歳 同五年二月廿六日立后 同七年三月廿一日門号 廿歳

同月廿七日落飾 同年十一月日為國母 享保五年二月十日

依庖瘡崩 四十歳 同年三月五日葬泉涌寺

門院 譜 東山帝中宮承秋門院 幸子 有栖川一品兵部之幸仁親

王御女 天和元年酉年九月廿三日御誕生 号英 元祿九年十

一月一日入内御治定 同十年二月廿五日入内 十六歳 同日女

御宣下 宝永四年五月三日准三宮 同月十八日内親王宣下

同五年二月廿六日中宮宣下 同七年三月二十一日止中宮職

同日門号定 号養秋門院自 同月廿七日御薙髮 号今日東山帝
今奉祿女院 御百箇日

内親王

同年十一月十一日國母宣下 享保五年二月五日山崩 卅歲

類聚 同年三月五日奉葬于泉涌寺

門院 承秋門院子 有栖川幸仁親王女 母家女房 東山院妃

中御門院准母 延寶八年九月廿三日誕生 元祿十年二月

廿五日入内 十八歲則 為女御 寶永四年九月三日准三宮 二十八歲 同五年

二月廿七日中宮 二十九歲 同七年三月廿一日院号 三十一歲 享保

五年二月十日山崩 卅一歲 三月五日奏遺令廢朝七箇日

禁裏潮位洞觸穢 今夜葬泉涌寺 中御門院御在位者

御錫行 三ヶ日

御系譜附錄 本 寶永七年三月廿一日門号宣下号新女院 同月廿

七日御落飾 卅一歲 東山院 院御百ヶ日 御戒師相國寺瑞春菴集伏和尚

同七年十一月十日依勅為國母正德三年六月日除新字号

女院

帝系 幸仁親王御子承秋門院幸子 東山院中宮 母家女房 延

寶八 庚申 年九月廿三日誕生号英宮 元祿九 丙子 年十一月一日入

内之儀相定 同十 丁丑 年二月廿九日入内女御 十八歲 寶永四丁

亥年五月三日准后宣下 同月十八日內親王宣下 同五 戊子 年二

月廿七日立后中宮 同七 庚寅 年三月廿一日院号定号承秋門院

同月廿七日落飾 東山院 百ヶ日 同年十一月十一日國母宣下 享保五 庚

子年二月十日崩 卅一歲 同年三月五日葬于泉涌寺

東山院天皇典侍
新崇賢門院藤原賀子
前内大臣隆賀女

御系譜中御門院御寶母新崇賢門院藤賀子
櫛笥前内府隆賀
公女始勾當内侍後權典侍又号新大典侍局
御讓位後改四條局
宝永六年九月廿八日從二位
同年十二月廿七日薨廿五歲
同七年正月廿二日葬廬山寺
同年三月廿六日贈准三后
同日号

女院類聚新崇賢門院賀子
櫛笥前内大臣隆賀公女母
東山院妾中御門院母
延宝二年月日誕生
月日官仕勾當
内侍
寶永廿年元祿九年七月十四日為新典侍
年月日

改称新大典侍
宝永六年六月日改号四條局
同九月廿八日
從三位
同年十二月廿九日薨廿五歲葬泉涌寺
同七年三月廿六日
贈准后院号

准后宣下記故從二位藤原賀子櫛笥隆賀公女中御門院御母儀
宝永七年三月廿六日贈准后

中御門院天皇中宮
贈皇太后宮

藤原尚子

攝政家熙女

御系譜 櫻町院 御母新中御門院藤尚子 近衛攝政家熙公女

元祿十五年三月九日生 正德五年月日為女御 享保元年十一

月十三日入内 十五歲 同五年正月廿日准三后 同日薨 十九歲 同月

廿七日門号 同年二月六日葬泉涌寺 同十三年六月廿七日贈立

后 群書類聚總目錄
御名字作熙子

女院類聚 新中御門院尚 近衛前攝政家熙公女 母町房中納言

兼量之女 中御門院妃 櫻町院母 元祿十五年五月九日

誕生 享保元正德年十一月十三日入内 同日為女御 同五

年正月廿日准三宮 十九歲 同日院号宣下 同日薨 實昨夜事
切云々廢

朝五 二月六日葬泉涌寺 同十三年六月廿六日贈皇太

后宮 清梅太字
忍術文

女院傳中御門帝女御新中和門院御譚照子一本尚子近衛殿前攝政太政大臣家照公御女元祿
 十九年三月九日御誕生 正德五年月日女御入内御治定 享
 保元元年十一月十三日入内十五歲 同日女御宣下 同五年正月廿日

准三宮宣下 同日薨御十九歲 同月廿七日門号定新中和門院
 同年二月六日奉葬于泉涌寺 同十三年六月廿六日贈皇
 后宮

橘所院天皇御准后 藤原舍子 關白吉忠女
 青綺門院

御系譜後櫻町院御母青綺門院藤原舍子 二條前關白吉忠公女
 享保元年八月廿四日生 同十八年九月廿八日為御息所 元文
 元年十一月十五日入内廿二歲 同五年五月廿六日從三位 同月
 廿七日准三后 延享四年五月二日新殿御移徙 同月廿七日
 立后廿三歲 寬延三年六月廿六日門号廿五歲 天明三年十
 月十二日号大女院 同八年正月廿日回祿令移照高院宮給
 同年三月十八日令移知恩院宮給 寬政二年正月廿九日
 薨七十五歲 同年二月廿二日葬泉涌寺
 遺令委同夜

女院類聚 青綺門院舍 二條前關白吉忠公女 母從三位 子
 加賀宰相女 櫻町院妃 桃園院養母 當今母 享保元
 年八月廿四日誕生 元文五年十一月廿五日入内廿歲 同五

年五月廿六日從三位 同月廿七日准三宮 延享四年五月

廿七日皇太后宮卅三歲 寬延三年六月廿六日院号 同日

落飾

女院傳極所帝皇后青綺門院御諱舍子二條殿前關白准后 吉忠公御女御母從三位菅原利子 享保元丙

申年八月廿四日御誕生 同十八年九月廿八日被定干御息所入内御治

定 永元元年月日叙從三位 同年十一月廿五日入内廿二歲

同日女御宣下 同五年五月廿七日准三宮 延享四年五月廿七

日皇太后宮三十三歲 同年六月五日行啓始 寬延三年六月

廿六日門号定青綺門院 同日御薙髮自号号 天明三年十月

十二日被祢大女院 同八年正月三十日御所火災上移御白河

照高院宮 同年三月十八日遷御于知恩院宮即為假所

寬政二年正月廿九日崩御于假所七十二歲 同年二月廿二日

奉葬于泉涌寺 清臣使元元年叙從三位者訛以 元文五年五月廿六日吉乃是

極所院天皇御侍

開明門院藤原定子

大幼言實武女

御系譜 桃園院御母開明門院藤定子 姉中路大納言實武女

始權典侍局後改新宰相典侍 延享四年五月三日改大典侍

室曆十二年七月廿七日祢三位局 同十三年二月十日門号薙

髮戒師青蓮院尊真法親王 明和九年正月廿八日自堺町

御殿移徙于新殿礼成門院 御齋地 天明三年二月十二日得度号哲

堂戒師慈雲和尚 同八年正月廿日回祿令渡林丘寺宮後

令移知恩院中了正院給 寬政元年九月廿二日薨 同年

十月廿六日葬清淨華院

女院類聚 開明門院子 姉中路宰相實武女 母 極所

院妾 桃園院母 享保十三年月日誕生 年月日官仕典

侍 寬保三年正月廿五日從四位下无位 延享四年五月一日叙

從三位 宝曆十三年二月九日門号 於碎宮下上平

女院傳 桃園帝御親母開明門院 諱是子婦小洛前 宰相實武之女 享保元丙申

年誕生始權典侍局後宰相典侍局又大典侍局 延享四年

年五月三日叙從三位 宝曆十二年七月廿七日祿三位局 同

十三年二月十日門号定 開明門院 天明三年二月十一日得度号

哲堂 同八年正月三十日洛大火御在所燒亡移于智恩院

山内良正院為假殿 寬政元年九月廿三日薨去 七十四歲

同年十月廿六日葬于清淨華院

桃園院 天皇准后

恭禮門院 藤原富子

太政大臣兼香女

御系譜後桃園院御母恭禮門院藤富子 一條関白兼香女 寬

保三年二月四日生 宝曆五年十月廿九日從三位 同年十月

廿六日入内 十三歲 同月廿七日女御宣旨 同九年三月廿日准后

明和八年五月九日立后 同年七月九日門号称新女院 天明

三年十月十二日被祿女院 盛化門院依 称新女院也 寬政七年十一月廿日亥

半刻崩 五十三歲 同年十二月十三日御入棺 同月廿九日葬泉

涌寺 同月廿五日遺令奏

女院傳 桃園帝皇后恭禮門院 御諱富子一條殿前関 白太政大臣兼香女 寬保三癸

亥年二月四日御誕生 年月日入内御治定 宝曆五年十月

廿九日叙從三位 同年十一月廿六日入内 十四歲 同月廿七日女

御宣下 同九年三月廿一日准三宮 明和四年九月廿五日迁御

明和四年九月廿五日御
移從于新殿 同

于新造御所 同八年九月九日御轉昇皇太后宮 廿五歲 同
 年七月九日門号定 門院 禮 同日御薙髮 自今被稱 新女院 天明三
 年十月十三日改被稱女院 寬政七年十一月廿九日崩御
 同年十二月廿九日奉葬于泉涌寺

後桃園院天皇准后
 盛化門院 藤原維子

准三后内前女

御系譜先格天皇御養母盛化門院藤維子 近衛准三后内前公女
 宝曆九年十二月九日生 先帝依御忌日被改十日 号倫君 明和五年十一月
 廿五日御息所 十歲 安永元年十二月四日入内 十四歲 同日從
 三位 同月五日女御宣上日 同八年六月三日准后 同十年三

遺令奏同夜

月十五日立后稱大宮 天明三年十月十二日薙髮門号稱新
 女院 同夜戌半刻崩御 廿五歲 同月廿二日入棺觸穢 同
 年十一月十三日戌刻葬于泉涌寺

女院侍後桃園帝皇后盛化門院 御諱維子近衛殿前白 太政大臣内前公御女 宝曆
 九己卯年十二月九日御誕生 後依先帝御忌日被用十日 明和五年十一月廿
 五日為御息所入内御治定 安永元年十一月廿八日叙從三

位 同年十二月四日入内 十四歲 同月五日女御宣下 同八

年六月三日准三宮廿歲 同九年三月廿六日來年三月中
 旬立太后御治定 同十年三月十五日皇太后宮稱大 天
 明三年十月十二日門号定盛化門院自今 同夜山崩廿
五歲 同月廿二日御入棺觸自今日 同年十一月十三日奉葬
 于泉涌寺

光格天皇中宮
 新清和院依子内親王
 後桃園院天皇皇女

御系譜後桃園院皇女新清和院依子母盛化門院 安永八年
 正月廿四日生号女一宮 同九年十二月十三日親王 寬政三年

六月廿日依先帝遺詔立皇后御治定 同五年十二月廿四日
 准三后陣 同六年三月一日入内十六歲 同月七日立后自

今被称中宮 文化四年七月十八日寬宮為御実子 文政三
 年三月十四日轉皇太后宮給陣 自今称大宮 天保十二年閏

正月廿二日院号宣下薙髮 弘化三年六月廿日御違例同夜
 崩亥刻古 七月廿三日酉刻葬于泉涌寺

門院譜光格帝皇后新清和院御諱依子後桃園帝子 安
 永八己亥年正月廿四日御降誕奉号女一宮 同九年十二月
 十三日内親王宣下二歲 寬政三年六月三十日依先帝御

遺詔皇后御治定 同五年十二月廿四日准三宮 同六年
 三月一日御入内 十古歲 同月七日立皇后 節會宮 司除月 文化四年
 七月十八日寬宮御實子御治定 文政三年三月十四日葬
 御轉昇皇太后宮 天保十二年後正月廿二日院号定 新清和院
自今奉 松女院 同夜御薙髮 御戒師仁和寺 齋仁入道親王 弘化三年六月二十
 日崩 六十八歲 七月三日御内棺 同廿三日奉葬于
 泉涌寺

光格天皇御侍
 東京極院 藤原靖子 贈内大臣經逸女

御系譜 仁孝天皇御女新清和院依子 御實母東京極院
 藤原靖子 勸修寺贈内大臣府經逸公女 始号新典侍
 後改宰相典侍 文化十三年十月十九日改大夫典侍 同十四
 年三月廿日改權中納言 天保十二年四月廿二日薙髮号雲
 遊院 同十三年十二月一日從三位宣下 同十四年三月
 廿二日薨 同年四月廿六日葬于泉涌寺中雲龍院
 同十五年二月十三日贈准后号東京極院
 女院 傳今上御親母東京極院 諱靖子勸修寺贈内大臣經逸 公女母松平攝津守仲庸女 安永九
 庚子年誕生 松宰相典侍局後權中納言從四位下 天保十二年
 九月廿九日薙髮 院 同十四年十二月一日叙從三位 自今被称 三位局
 同十五年三月廿一日薨去 六十四歲 同年四月廿五日葬于泉涌

寺中雲龍院 同十五年二月十三日贈准三宮 同日院号
定極院

代孝天皇准后
新皇嘉嘉門院 藤原繫子

准三后改撰女

御系譜仁孝天皇皇子安仁親王 母新皇嘉嘉門院藤繫子 鷹司

准三后改撰公女 寬政十年二月一日生号貞君 文化十年十月十

七日為御息所十歲 同十四年十二月五日從三位廿歲 同月十一日

入内 同月十二日女御 文政三年十二月廿六日准三后陣廿三歲

同六年四月一日依御違例令移干桂殿給 同月三日申半刻

薨廿六歲 同日門号 同月十一日入棺觸穢 五月二日葬

干泉涌寺 同七年七月十日贈皇后

女院傳今上女御新皇嘉嘉門院 御諱繫子鷹司故准后 前關白改撰公御女 寬政九丁巳

年二月一日御誕生貞君 文化十年十月十七日東宮御息所御治

定 同十四年三月廿四日自今被祿女御之号 同年十二月五日

叙從三位 同月十一日入内廿歲 同月十二日女御宣下 文政

三年十二月廿六日准三宮宣下 廿四歳 同六年四月一日依例
 違例令移御于桂殿給 同月二日皇女降誕 同月三日薨
 御 二十七歳 同月六日門号定 新皇嘉 同月十一日御入棺
 同年五月二日奉葬于泉涌寺 同七年七月十二日贈皇后
 宮宣下

仁孝天皇後准后

新翔平門院

藤原禊子

准三后改通女
 實准三后改通女

御系

譜考明天皇御母新翔平門院藤原禊子 鷹司准三后改通
 公女 文化八年二月廿五日生号清君 實准三后改通公女 文政七年十月

廿三日為改通公養女入内御治通定 同八年八月廿二日女御入内
 十五歳 同十三年五月廿二日准后 廿歳 弘化四年三月十四日立大后
 徐六宮 廿七歳 同年十月十日御違例 同月十三日門号宣下薨

髮 同日崩 同月十六日入棺 同年十一月十二日葬于泉

涌寺

門院譜仁孝帝後參女御新翔平門院 御諱禊子後皇太后宮鷹司
 閨白 改通公御女實准后改

熙公 文化八年辛未年御誕生 号清 文政七年十一月廿三日為
 御女 後參女御入内御治定 十四歳 同八年八月十七日叙從三位同
 月廿二日聽輦車入内 十五歳 同月廿三日女御宣下 同十

三年五月廿二日准三宮宣下 二十歳 弘化四年三月十四日皇

太后宮宣下 被称大宮 三十七歳 同年十月十三日院号定 称新翔平

同夜 被上崩 同年十一月二十二日遺令奏 同夜葬

干泉涌寺 同五年正月二十日御塔供養

仁孝天皇御侍 新待賢門院 藤原雅子 贈左大臣實光女

御系譜孝明天皇御実母新待賢門院藤雅子 正親町贈左府

實光公女始号權典侍後改宰相典侍 弘化四年十月十二日称

藤大幼言同日從三位 嘉永三年二月廿七日准三后 同日

門号 同年三月五日又御贈官位 安政三年七月六日卯

刻御違例申刻薨 五十四歳 同月十二日御入棺 同月十七日

西刻葬于泉涌寺

門院譜當今御親母新待賢門院 御諱雅子正親町贈左大臣惠明院 實光公御女母四也故前大幼言公

女 亨 享和三年十一月一日誕生 文政四年八月廿四日典侍被召

出 称權典侍 十九歳 天保十年十二月廿六日称宰相典侍 弘化四年十

月十二日称藤大幼言 同日從三位宣下 消息 嘉永三年

二月廿七日准后宣下 同日門号宣下 新待賢 門院 同月廿八

日御薙髮
安政三年七月六日
薙去
五十四歳内
實五日
夜

同月廿

